

■5月に入り世界の株式市場は戻りを試す展開に

4月に大きく調整した世界の株式市場は、足元では戻りを試す展開となっています(図表①)。株価調整のきっかけとなった中東情勢の緊迫化や、米インフレ再燃とそれに伴う金融政策に対する過度な懸念が和らいだことが背景にあります。

市場では、米国で15日に発表される4月のCPI(消費者物価指数)への注目が高まっています。市場予想を上回るインフレの伸びが確認されれば、再度米利下げ期待が後退するものと思われ注意が必要ですが、現状では9月のFOMCにて利下げが開始されるとの予想が6割程度※となっています。

※ CME Fed Watchのデータ(5月13日時点)を基に算出

■企業の保守的な決算が日本株の上値を抑えている

米国株を中心に上昇基調が鮮明な中、日本株は上値の重い展開が続いています(図表①)。背景には企業による慎重・保守的な業績見通しがあります。9日時点で東証プライム市場上場(2・3月決算)の約4割の企業が決算発表を終えました。

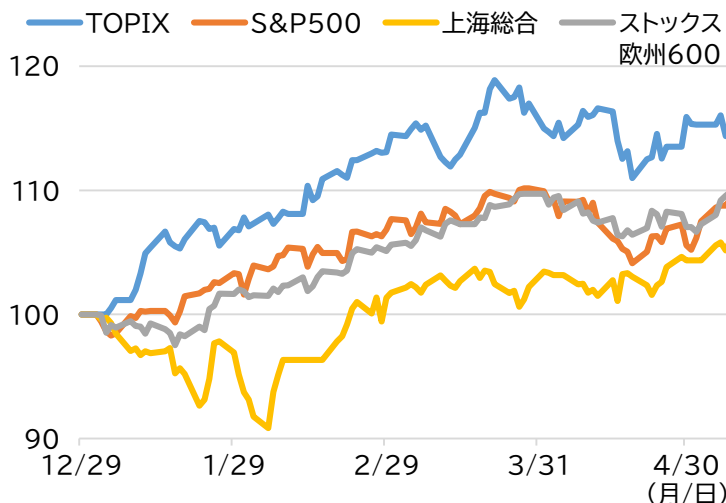
2023年度の実績は市場予想を上回った一方、2024年度の見通しは市場予想と比べて大幅に慎重な内容となっています。

今後は、上記企業側の業績見通しに加え、積極的な中期経営計画や自社株買い等の株主還元策の発表に注目が集まるものと思われ、中長期的な企業価値向上に向けた具体策を示す企業が増えれば、海外投資家による日本株買いを後押しすると想定されます。

■引続き企業の資本コスト改善への取組みに注目が集まる

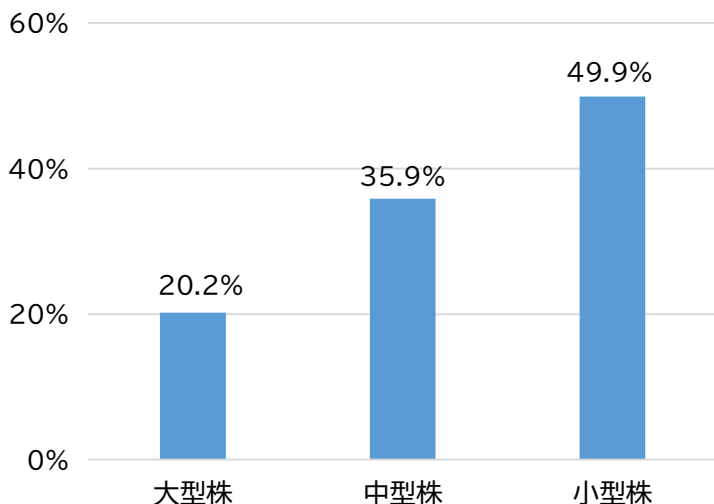
図表②は、日本の各規模別株価指数におけるPBR(株価純資産倍率)1倍未満銘柄の割合を表したものです。中小型株は大型株に比べ、PBR1倍未満の水準で取引されている割合が高いのが現状です。一方で、中小型株にはキャッシュリッチな企業が多く存在しています。図表③は、各規模別株価指数におけるキャッシュリッチ企業の割合を示したのですが、中小型株は大型株に比べ、その割合が高いことが見て取れます。今後も企業が豊富な手元資金を活用し、株主還元をはじめとする資本コスト改善への取組みを一層進展させると期待されますが、その伸びしろは中小型株の方が大きいと思われ。

図表①:世界の主要株価指数の推移



※ 期間は2023年12月末～2024年5月10日、2023年12月末を100として指数化(出所)Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成

図表②:各規模別株価指数におけるPBR1倍未満銘柄の割合



※ 2024年5月10日時点

※ 大型株:TOPIX100、中型株:TOPIX Mid400、小型株:TOPIX Small(出所)Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成

図表③:各規模別株価指数におけるキャッシュリッチ※企業の割合

大型株	41.4%
中型株	49.7%
小型株	59.9%

※ 各指数に占めるネットキャッシュ(現預金と有価証券の合計から有利子負債を差し引いたもの)がプラスの銘柄の割合、2024年5月10日時点(出所)Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成